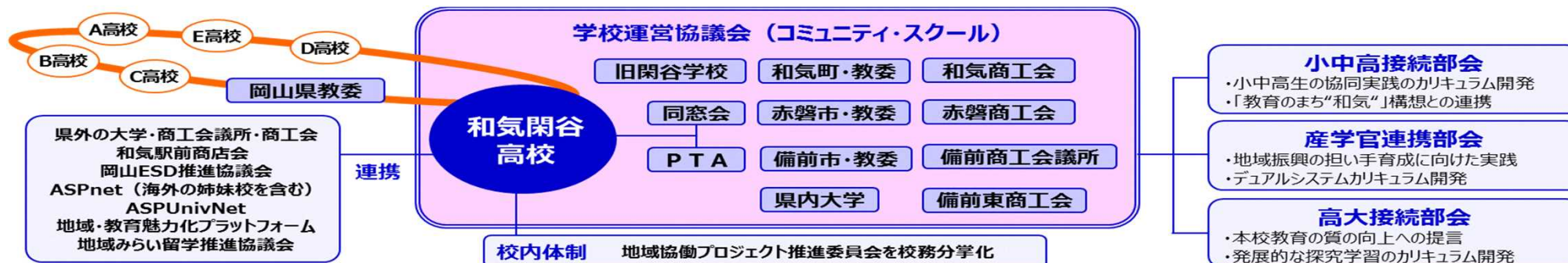


# 研究開発構想名：「恕」の精神を持って地域と協働する探究人の包括的育成

本構想の目的は、「地域と協働する探究人」を包括的に育成することである。「地域と協働する探究人」とは、自己の在り方・生き方を探求し自己成長と地域貢献を融合した人生をデザインし、SDGsを意識しつつ、身の周りや地域課題を主体的に探究し、地域に貢献できる人物である。この目的のため、各教科・科目、総合的な探究の時間、課外活動の3領域を通して、「7つのチカラ」（自分を理解する力、職業とつなぐ力、考える力、行動する力、コミュニケーション力、チームワーク力、自立する力）の育成を目標とする。将来にわたり探究心を持ち、身の周りや地域の課題の解決策を提案する等、地域に貢献する人材を持続的に送り出すことが期待できる。



## 令和元年度の目標

年次計画 2019 各教科等の長期ルーブリック策定とカリキュラム開発

### 各教科・科目

- 各教科・科目のシラバスを、7つのチカラと関連づけて明確にする。→7つのチカラ育成の年間計画を学校全体で共通理解する。
- 学校設定教科・科目「地域協働探究」のシラバス及び年間指導計画、評価規準、教材を検討、完成させる。

### 課題解決型探究学習「閑谷學」

- 各年次の年間指導計画を作成し、実施後検証する。
- 1・2年次生探究学習発表会及び3年次生卒業探究発表会を公開。3年次生は卒業探究論文集を作成する。

### 課外活動

- 近隣高校との探究学習発表会に生徒を派遣する。
- 県内先進実践校との連絡協議会を立ち上げ、取組の成果を共有する。

### コンソーシアム及び各部会等

- 学校ホームページに本研究開発専用のサイトを開設し、情報発信。
- コンソーシアム（魅力化推進協議会）を年2回程度、各部会を年3回程度、担当者による連絡会を隔週程度開催し、本研究開発の目的・目標を踏まえながら連携先との連絡調整を行う。

## 取組状況

### 各教科・科目

- 各教科で7つのチカラとつながる教科の長期ルーブリック案を完成。
- 「地域協働探究」のシラバス及び年間指導計画案を作成。受入側のニーズを探ることにより、評価基準も含めた具体的な実習方法を検討。

### 課題解決型探究学習「閑谷學」

- 探究学習の専門性や新規性を高めるため、1・2年次生を中心に、テーマ決めや中間報告会、最終発表会等で、多くの関係者から指導助言を受けた。

### 課外活動

- 三重・宮崎・山形等で高校生同士の交流を実現。
- 「地域と連携した『高校の魅力化』フォーラム」の開催（11月）。取組の成果を共有。

### コンソーシアム及び各部会等

- 魅力化推進協議会を母体に学校運営協議会（コミュニティ・スクール）へ移行（12月）。2月の会議は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。各部会は年3回開催。

## 成果と課題

### 各教科・科目

- 高大接続部会において、7つのチカラを構造化し、教科の長期ルーブリックにも反映させた。次年度より運用し、検証していく。
- 2年次生5名が5日間×3期の就業体験実習を2市1町の企業で実施した。次年度は単位認定を行う。実施後のヒアリングや産学官連携部会での意見も参考にしながら令和3年度から実施する「地域協働探究」の内容を確定させる。

### 課題解決型探究学習「閑谷學」

- 大学教授や地元自治体・企業の方や地域の方に関わっていただく機会を設けた。2市1町にフィールドを広げることで、より自分ごとに考えたり、テーマや検証対象の幅が広がったりと、探究活動を活発にすることができた。生徒は専門的なことを学ぶ意欲を持つとともに、行動から学びを得ることで自信を得て、自ら主体的に学習を進めることができた。

### 課外活動

- 県内外の交流会に参加することで、他校の生徒から刺激を受けるとともに、自らの探究活動を内省する機会を得た。交流会参加者がリーダーシップをとり、校内における探究活動を積極的に推進することができた。今後は有効的なフィードバック方法を体系的に整えたい。

### コンソーシアム及び各部会等

- 学校ホームページに本研究開発専用のサイトを開設し、情報発信できた。
- コンソーシアム等を通して、本校の活動を広く地域の方に知っていただき、さらに各所で発信していただくことができた。次年度はコンソーシアム及び各部会を年3回、校内の担当者会議を隔週程度、校外実務担当者との連絡会を月1回程度開催する予定である。